

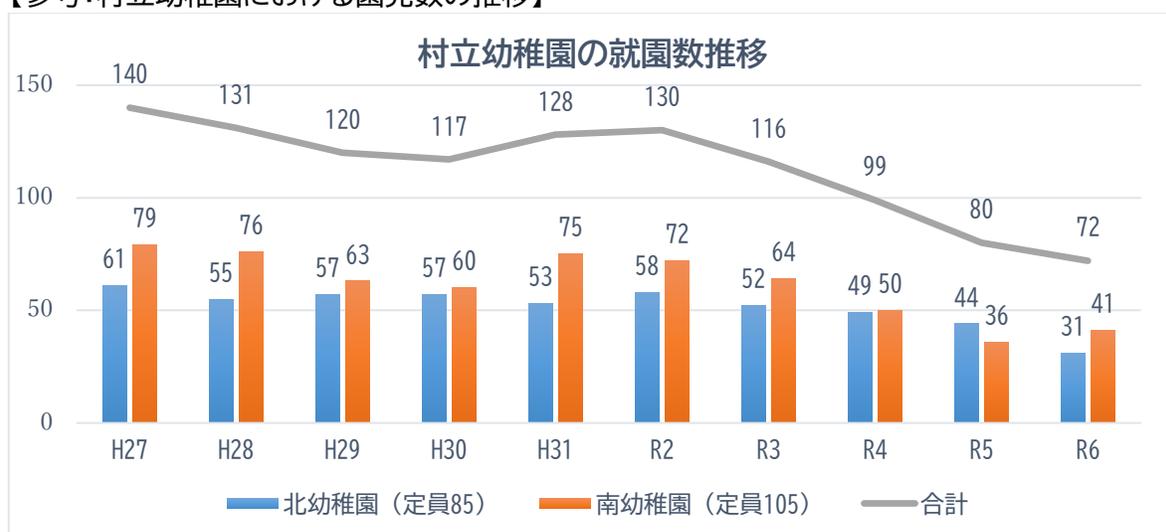
村立幼稚園（北幼稚園・南幼稚園）のあり方について

1園化までの経緯

令和5年度の入園者数の減少を受け、榛東村立幼稚園あり方検討委員会を設置いたしました。委員会では、令和6年2月に教育長からの諮問を受け、学識経験者、幼児教育の実践者、県行政担当者、本村子ども子育て会議の委員からなる10名の委員で検討が始まりました。

村立幼稚園（北幼稚園・南幼稚園）の利用者の減少については、共働き世帯の増加や保育ニーズの高まりなどの理由により、長時間保育を実施する保育所や認定子ども園を希望する家庭が増えている状況が背景にあると考えられます。

【参考:村立幼稚園における園児数の推移】



榛東村立幼稚園あり方検討委員会作成

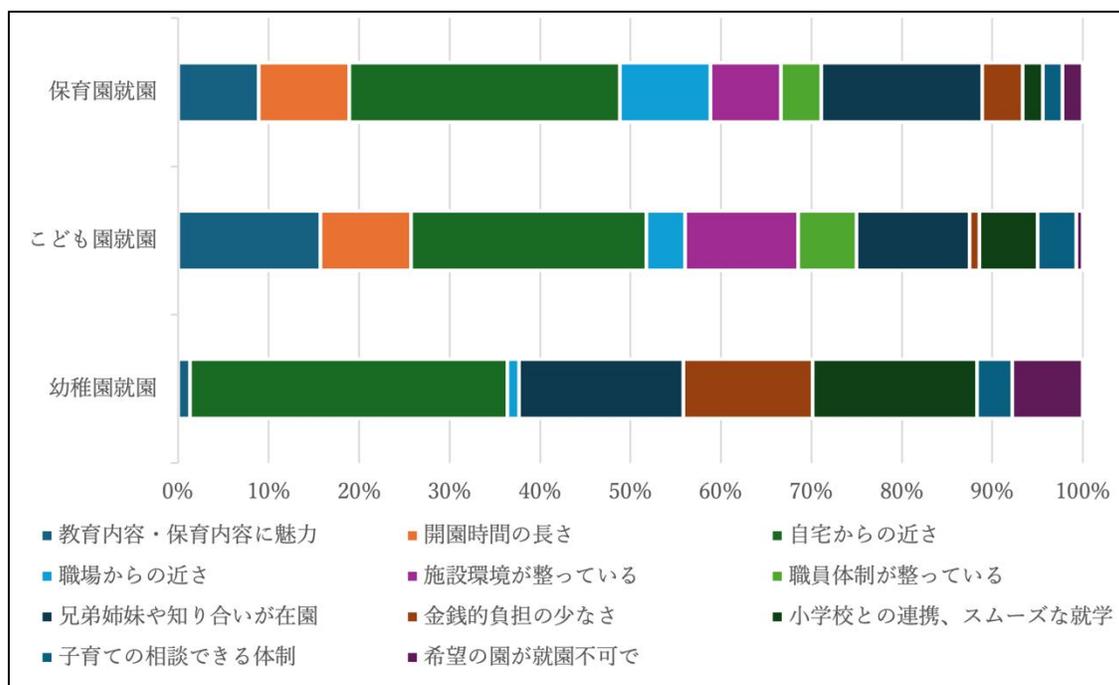
現在、本村の幼稚園の集団規模は非常に小さくなっており、きめ細かく一人ひとりに応じた教育を提供できます。一方、多数の同年齢や異年齢の幼児同士で関わることで育ちが保障される幼児教育においては、教育効果が高まる適正な学級規模を維持していく必要があります。

また、現在、本村の待機児童は解消されています。村として待機児童解消のために保育所を誘致した経緯を踏まえ、今後も村立幼稚園と村内の民間保育施設が安定した

経営の下で存続できることが、村内全体の未就学児童の就園施設の受け皿を確保することにつながります。

村内未就学児童保育施設を利用している保護者の方へ実施したアンケートを実施し分析した結果、村立幼稚園は村にとっての資源でありその存続の重要性が確認されました。

【参考：就園施設別の現在就園する施設を選んだ理由】



榛東村立幼稚園あり方検討委員会作成

このような経緯を経て、村立幼稚園を1園化することとなりました。老朽化した園舎については、今後の人口増加が見込めない状況や財政的な負担が大きいことから、新設や大規模改修に踏み切ることが適当でないとの判断から、2園のどちらかの園舎を活用することとなりました。

1園化の際に活用する園舎の選定

どちらの園舎を活用するかについては、子ども、保育者、保護者、管理者の視点から検討しました。また、実際に両園での保育を経験している職員に対して聞き取り調査を行い参考意見としました。

【子ども・保育者の視点】

北幼稚園の特徴・・・見通しの良い園庭、異年齢交流が生まれやすい教室の配置

南幼稚園の特徴・・・広いグラウンドでの遊びの充実

*南幼稚園は園庭とグラウンドが2箇所に分かれており、子どもが自由に行き来することができず、保育者の目も届きにくい。

【保護者の視点】

北幼稚園の特徴・・・園舎から駐車場までの距離がある

南幼稚園の特徴・・・園舎に隣接した、広い駐車場がある

*北幼稚園の駐車場は離れており、保護者にとっては負担となる。しかし、小学校入学へ向けた自力通学の準備期間として横断歩道を渡り歩道を歩くことに慣れる機会と捉えることもできる。

【管理者の視点】

*就園人数が減少している現状において、公立幼稚園として2園体制で運営を続けていくことは財政的に困難である。

これらの協議を踏まえ、見通しがよく、安全・安心な保育が望め、異年齢交流が生まれやすい教室配置であることから、北幼稚園の園舎を活用することが答申に示されました。ただし、園舎から駐車場までの距離があることなど登降園時の安全確保や保護者の負担を軽減するための配慮が必要な部分については、付帯意見として示されました。

令和7年4月から村立幼稚園を1園化することで合意形成

以上の検討の結果、村立幼稚園として子どもたちによりよい教育を継続して提供していくため、現在の村立幼稚園2園を統合し、新たに魅力ある村立幼稚園を1園開園することが妥当との合意にいたりました。